

第8回カトリック文庫講座

遠藤周作の“沈黙”の声を聴く

— 生誕100年、現代の私たちに語りかけること —

主催：南山大学ライネルス中央図書館カトリック文庫協議会

共催：南山大学宗教教育委員会



講師 山根 道公氏

ノートルダム清心女子大学
キリスト教文化研究所教授

2023年12月9日（土）

13：30 – 15：00

会場：南山大学ライネルス中央図書館 1階 NANTOルーム

（名古屋市昭和区山里町18） **参加無料**



- カトリック文庫Webページの専用フォームよりお申込みください。
<https://office.nanzan-u.ac.jp/library/catholicbunko/>（上記QRコードからアクセス可）
- FAX **052-833-6986** でお申込みの場合は、件名を「カトリック文庫講座参加希望」として
氏名・身分（一般参加など）・連絡先（電話番号）を明記のうえ、お申込みください。
- 申込時に提出された個人情報は、本講座受付のために利用します。

2023年は遠藤周作生誕100年の記念すべき年である。20世紀を生きた遠藤周作が、21世紀を生きる現在の私たちに何を語りかけようとしているのか、講師に遠藤周作研究の第一人者・山根道公氏をお迎えして、この機会に皆で一緒に考えてみたい。

山根氏によれば、遠藤周作は日常を「生活の次元」と「人生の次元」とに分けて捉え、前者における数々の失敗や挫折が、後者では活かされていると理解することで、失敗や挫折をも前向きに受け止めて病多き人生を生き抜いたという。

現代の人々は「生活の次元」で日々の苦難を重く受け止めがちであり、これが不寛容さにつながっているのではないかと山根氏は推察する。宗教さえも不寛容さが表面化し、ついには戦争に帰結する。それでは宗教が寛容さを取り戻すことができれば平和な世界が実現できるのか。人々の思考を「人生の次元」へ導くことができれば、一人ひとりの苦しみは自ずと緩和され平和に近づくことができるのか。

「人生の次元」をテーマに遠藤周作が最後に執筆した純文学長篇小説『深い河』。その直前執筆の『男の一生』では我々にとって身近な木曾川を見つめ「人生の次元」への想いを語り作品を結んでいる。生誕100年にあたる今、この講座が数多くの作品を通して遠藤周作が我々に伝えようとした思いに触れる機会になれば幸いである。

* 講座にあわせて、ライネルス中央図書館に所蔵する遠藤周作関連の資料を展示予定

